

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 気仙沼市立中井小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒988-0563

宮城県気仙沼市唐桑町中井134-3

E-mail nakai-sho@kesennuma.ed.jp

Website http://www.kesennuma.ed.jp/nakai-syou/

幼児児童生徒数 男子 35 名 女子 27 名 合計 62 名

幼児・児童・生徒の年齢 7 歳～12 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「ふるさとを見つめながら、未来に生きる子どもを育てる」を活動テーマとして、ESDの実践を通して、次の資質・能力を育成することを目標とした。

- ・地域の豊かな自然や文化，産業等を理解することで，ふるさとのよさを見つめ直し，それを大切に受け継ごうとする心情
- ・地域の課題や未来について考え，自分にできることを実践しようとする態度

学年ごとのテーマや活動の概要は，次の通りである。

① 第1学年「どきどき わくわく 見つけよう！」

草花の栽培及び学校周辺で見付けた自然素材を使った造形活動や遊びを通して，地域の自然に関心をもち，知る。

② 第2学年「聞いて 聞かせて しんはっけん！」

町探検を行って自然観察や野菜の栽培活動をしたり、地域の人と関わったりすることを通して、身近な自然の豊かさを体験的に理解する。

③ 第3学年「知りたいな ふるさとの自然」

魚市場の見学や野菜の栽培活動を通して、身近な「食」についての理解を深める。

④ 第4学年「わくわく体験！ふるさとの伝統」

地域の伝統について調べたり、実際に体験したりする活動を通して、地域の人やもの、伝統文化や伝統芸能のよさについて考える。

⑤ 第5学年「見つめよう！私たちを取りまく世界」

水辺の生物観察やマイクロプラスチックなどの調査を通して、自然界の仕組みについて理解を深める。さらに、「森は海の恋人運動」と教科・領域等に関連させながら、自分たちが行うことのできる自然環境保全の取組について考える。

⑥ 第6学年「共に歩もう！未来に向けて ～地域と未来への貢献～」

地域の史跡見学等を行い、生まれ育った地域の歴史について学ぶ。また、アルミ缶回収を行い、福祉施設に贈り物をするボランティア活動を行うとともに、地域の福祉施設を訪問し、施設利用者との交流することで、地域の現状について理解する。



③ の写真（魚市場の見学）



④ の写真（伝統芸能の体験活動）



⑤ の写真（森・川・海の関わり学ぶ）



⑥ の写真（福祉施設利用者との交流）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

「調べよう日本の水産業 1～5」(岩波書店) 「考えよう地球環境 3」(ポプラ社) 「心に響くあの人のことば」(学研教育出版) 「おいでよ森へ」(ダイヤモンド社) 「データと地図で見る日本の産業 3」(ポプラ社) 「森・川・海つながるいのち」(童心社) 「地球 SOS 図鑑」(PHP 研究所)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校のESDのテーマ「ふるさとを見つめながら、未来に生きる子どもを育てる」を基に学年ごとにテーマを設定し、主に、生活科や総合的な学習の時間に活動を行っている。学年ごとに指導計画を作成しており、段階的に地域の豊かな自然や文化、産業等について理解を深めたり、ふるさとのよさを感じたりできる内容になっている。実践を行う中で各学年担任が工夫して指導を行うとともに、学期及び年度末の反省を基に指導計画の見直しを行い、指導計画の改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校では、校務分掌にESD／ユネスコスクールの担当教員を配置している。より効果的で系統性のある活動となるように、担当教員が中心になって全体計画の立案や活動内容の見直しを行っている。また、職員のESDに対する理解を深めるために、校内研修の際にESDに関する内容を話題に挙げ、他校の実践などを紹介している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

校内では、学期及び学年末に学年ごとに振り返りを行い、成果と課題を次の活動や次年度の計画に生かしている。さらに、市内のユネスコスクールが集まる研修会において実践報告を行い、各校の実践について意見交換を行っている。振り返り及び他校の実践や意見を基に改善を図ったことで、活動内容が充実してきた。しかし、学びの成果をクラス外または学校外に発信できていないことが課題と言える。より多くの人に発信する場を設定するなど、環境整備が必要である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

今年度は、活動成果の発信の一試みとして、第5学年のESDの取組をリーフレットにまとめ、市内の各小・中学校や各家庭、公民館などに配布した。リーフレットにまとめることを学習のゴールとしたことで、児童の学習意欲の高まりが見られた。また、1年間の活動を振り返り、学びを深めることにもつながった。さらに、本校の取組を外部の方々知ってもらうことで、他の外部機関と連携したり、より活動を充実させたりすることが期待できる。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

本校では、学区内にある公民館と連携して行う「ふるさと学習会」を活動の中心に据えている。「ふるさと学習会」では、活動内容に応じて、協力が必要な外部機関や企業への橋渡しを公民館に担っていただいている。また、本校は、海洋教育パイオニアスクールとなっており、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターなど、本プログラムに関係する諸機関とも連携している。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

海洋教育こどもサミットや気仙沼市海洋教育実践発表会などにおいて、小・中学校や高校の代表児童・生徒が各校の取組を発表し合い、それぞれの取組について意見を交流している。また、市教育委員会が主催する研修会等において、担当教員が各校の実践を報告し合い、参考となる他校の取組を、活動の工夫・改善に役立てている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

地域の豊かな自然や文化，産業等に触れさせることで，ふるさとのよさに気付かせ，それを大切に受け継ごうとする児童の心情を育むことができた。また，地域の課題に目を向け，自分にできることを実践しようとする意識を，児童にもたせることができた。さらに，他のユネスコスクールや外部機関，地域などと連携をして活動を行ったことにより，活動内容の充実及び活性化が図られた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

平成29年度は，学年ごとに「ESDカレンダー」を作成し，各学年の活動内容や活動のつながりを見直した。その結果，学年間のつながりが明確になったが，内容によっては系統性が薄い活動もあった。そこで，平成30年度は，本校で推進している「海洋教育」を活動の柱に据え，特に系統性の薄い活動については，内容の見直しを行って実践する。また，内容の見直しに伴い，地域素材や地域人材，外部機関の活用方法も再度検討する。

本校では，指導過程の中に体験活動を多く取り入れることはできている。さらに，グループワークなども積極的に取り入れ，体験や調べ学習を通して分かったり考えたりしたことなどをまとめて発表を行っている。しかし，発表する対象がクラス内や実践発表会等の参加校のみになっていることが本校の課題である。「主体的・対話的で深い学び」の視点から学びの質を高めていくために，より多くの人に発信できる環境を整えていく予定である。